

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(メロン) - 1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
メロン (施設) (果実) 平成6年度	フロアブル (35%) 500倍 2500/10a 散布	日植防研・牛久 (アンデス)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
			5	1	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
			5	3	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
			5	7	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
	フロアブル (35%) 500倍 3000/10a 散布	日植防研・宮崎 (アルセーヌ春II)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
			5	1	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
			5	3	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
			5	7	<0.02	<0.02	0.01	0.01	
メロン (施設) (果肉) 昭和63年度	水和剤(80%) 900倍 2500/10a 散布	鯉淵学園 (アンデス)	0	—			<0.05	<0.05	
			5	7			<0.05	<0.05	
			5	10			<0.05	<0.05	
			5	14			<0.05	<0.05	
	日植防研・宮崎	日植防研・宮崎	0	—			<0.05	<0.05	
			5	7			<0.05	<0.05	
			5	10			0.05	0.05	
			5	14			<0.05	<0.05	
メロン (施設) (果実) 平成8年度	フロアブル (35%) 600倍 2500/10a 散布	石川植防協会 (アルサイト)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			5	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			5	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			5	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		愛知農総試・ 豊橋農技センター (夏系15号)	愛知農総試・ 豊橋農技センター (夏系15号)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				5	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				5	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				5	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	5	10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(しょうが)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
しょうが (露地) (塊茎) 平成10年度	フロアブル (35%) 600倍 2000/10a 散布	日植防研・牛久 (三州赤目)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		日植防研・高知 (在来大ショウガ)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネシヨウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(しそ)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
しそ (施設) (若 茎) 平成 20 年度	水和剤(40%) 1000 倍 1500/10a 散 布	高知県南国市 篠原 (在来種)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	1	0.06	0.06	0.04	0.04
			4	3	0.05	0.04	0.04	0.04
			4	7	<0.02	<0.02	0.02	0.02
		高知県香美郡 香北町 (在来種)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	1	0.05	0.04	0.07	0.06
			4	3	0.05	0.04	0.07	0.07
			4	7	<0.02	<0.02	0.04	0.04

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(いちご)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
いちご (施設) (果実) 平成5年度	フロアブル (35%) 500倍 2000/10a 散布	群馬園試 (女峰)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	14	1.52	1.51	3.78	3.66
			5	147	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
	フロアブル (35%) 500倍 2500/10a 散布	長野植防・南信 (れいこう)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			4	171	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	171	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
いちご (施設) (果肉) 平成3年度	水和剤(80%) 1000倍 3000/10a 散布	日植防研・宮崎 (女峰)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	105	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	散布	栃木植防 (女峰)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	133	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
いちご (施設) (果肉) 平成5年度	フロアブル (35%) 100倍 2000/10a 散布	群馬園試 (女峰) * +ペクV 400倍	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	142	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5*	142	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
	フロアブル (35%) 100倍 1500/10a 散布	長野植防・松代 (女峰) * +ペクV 400倍	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	143	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5*	143	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(みかん)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
温州みかん (露地・無袋) (果肉) 昭和48年	水和剤 (有機銅:50%) 500倍 600g/10a 散布	神奈川園試 根府川分場 (普通温州)	0	—	0.07	0.06		
			2	15	0.64	0.58		
			4	15	0.12	0.10		
	水和剤 (有機銅:50%) 500倍 500g/10a 散布	大分 津久見柑橘試験場 (普通温州)	0	—	0.31	0.30		
			4	16	0.37	0.36		
温州みかん (露地・無袋) (果皮) 昭和48年	水和剤 (有機銅:50%) 500倍 600g/10a 散布	神奈川園試 根府川分場 (普通温州)	0	—	0.83	0.73		
			2	15	4.31	4.04		
			4	15	6.89	6.72		
	水和剤 (有機銅:50%) 500倍 500g/10a 散布	大分 津久見柑橘試験場 (普通温州)	0	—	0.39	0.37		
			4	16	7.12	6.86		
温州みかん (露地・無袋) (ジュース) 昭和48年	水和剤 (有機銅:50%) 500倍 600g/10a 散布	神奈川園試 根府川分場 (普通温州)	0	—	0.04	0.04		
			4	15	0.24	0.23		
	水和剤 (有機銅:50%) 500倍 500g/10a 散布	大分 津久見柑橘試験場 (普通温州)	0	—	0.07	0.06		
			4	16	0.48	0.46		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(みかん)-2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
温州みかん (施設) (果肉) 平成6年度	フロアブル (35%) 600倍 7000/10a 散布	愛知農総試・蒲郡 (宮川早生)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	14	0.09	0.09	0.40	0.40
			5	28	0.04	0.04	0.54	0.51
		5	42	0.04	0.04	0.22	0.21	
		愛媛果試 (南柑20号)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	14	0.07	0.07	0.09	0.08
5	28		0.05	0.04	0.10	0.10		
5	42	0.03	0.03	0.28	0.27			
温州みかん (施設) (果皮) 平成6年度	フロアブル (35%) 600倍 7000/10a 散布	愛知農総試・蒲郡 (宮川早生)	0	—	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05
			5	14	21.1	20.9	20.82	20.36
			5	28	28.2	28.0	17.78	16.03
		5	42	17.9	17.8	21.14	19.52	
		愛媛果試 (南柑20号)	0	—	0.02	0.02	<0.05	<0.05
			5	14	35.3	35.2	43.80	42.41
5	28		29.7	29.5	45.74	44.70		
5	42	25.3	25.2	35.97	34.44			
温州みかん (施設) (果実) 平成6年度 果実(赤)換算 値)	フロアブル (35%) 600倍 7000/10a 散布	愛知農総試・蒲郡 (宮川早生)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	
			5	14	4.10	4.10	4.46	
			5	28	5.47	5.47	4.35	
		5	42	3.11	3.11	4.17		
		愛媛果試 (南柑20号)	0	—	0.02	0.02	<0.02	<0.02
			5	14	9.61	9.61	12.59	
5	28		7.85	7.85	13.88			
5	42	7.84	7.84	11.38				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(みかん)-3

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
みかん (露地) (果肉) 昭和46年度	水和剤(75%) 750倍 4500/10a 散布	香川農試府中 (井関早生)	0	—			<0.02	<0.02
			2	145			<0.02	<0.02
			5	30			<0.02	<0.02
			5	61			<0.02	<0.02
	水和剤(75%) 750倍 100/1樹 散布	大分国東柑指 (宮川早生)	0	—			<0.02	<0.02
			2	119			<0.02	<0.02
			5	29			<0.02	<0.02
			5	58			<0.02	<0.02
みかん (露地) (果皮) 昭和46年度	水和剤(75%) 750倍 4500/10a 散布	香川農試府中 (井関早生)	0	—			<0.05	<0.05
			2	145			0.08	0.04
			5	30			0.14	0.13
			5	61			0.09	0.09
	水和剤(75%) 750倍 100/1樹 散布	大分国東柑指 (宮川早生)	0	—			0.06	0.06
			2	119			0.06	0.06
			5	29			0.43	0.38
			5	58			0.53	0.42
みかん (露地) (ホ-ル) 昭和46年度	水和剤(75%) 750倍 4500/10a 散布	香川農試府中 (井関早生)	0	—			<0.05	
			2	145			<0.05	
			5	30			<0.05	
			5	61			<0.05	
	水和剤(75%) 750倍 100/1樹 散布	大分国東柑指 (宮川早生)	0	—			<0.05	
			2	119			<0.05	
			5	29			0.11	
			5	58			0.13	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(みかん)-4

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
みかん (露地) (果肉) 昭和57年度	水和剤(75%) 750倍 5000/10a 5回散布	トモノ農薬 生物試験場 (宮川早生)	0	-			<0.01	<0.01
			5	30			0.04	0.04
	塗布剤(5%) 原液1kg/10a (4g/樹) 樹幹5回塗布		5	1			<0.01	<0.01
			水和剤(75%) 750倍 5000/10a 5回散布 + 塗布剤(5%) 原液1kg/10a (4g/樹) 樹幹5回塗布	5	30			0.03
	5			1				
	みかん (露地) (果皮) 昭和57年度		水和剤(75%) 750倍 5000/10a 5回散布	トモノ農薬 生物試験場 (宮川早生)	0	-		
5		30					1.89	1.85
塗布剤(5%) 原液1kg/10a (4g/樹) 樹幹5回塗布		5	1				0.02	0.02
		水和剤(75%) 750倍 5000/10a 5回散布 + 塗布剤(5%) 原液1kg/10a (4g/樹) 樹幹5回塗布	5		30			1.61
5			1					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(みかん)-5

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
みかん (露地) (果肉) 昭和57年度	水和剤(80%) 800倍 300g/10a + ペクチンV 600倍	宮崎総農試 (早生温州) * ペクチンV無加用	0	—	<0.02	<0.02	<0.005	<0.005
			3	29	0.11	0.09	0.017	0.017
			5	29	0.09	0.08	0.025	0.024
			5	60	0.05	0.05	0.018	0.016
	水和剤(80%) 800倍 600g/10a + ペクチンV 600倍	三重農技 紀南 (宮川早生温州) * ペクチンV無加用	0	—	0.02	0.02	0.005	<0.005
			3	30	0.16	0.15	0.114	0.110
			5	30	0.30	0.26	0.203	0.191
			5	60	0.13	0.11	0.063	0.060
みかん (露地) (果皮) 昭和57年度	水和剤(80%) 800倍 300g/10a + ペクチンV 600倍	宮崎総農試 (早生温州) * ペクチンV無加用	0	—	0.05	0.05	<0.05	<0.05
			3	29	3.94	3.40	2.26	2.20
			5	29	6.15	5.24	2.39	2.30
			5	60	3.52	3.20	1.05	1.00
	水和剤(80%) 800倍 600g/10a + ペクチンV 600倍	三重農技 紀南 (宮川早生温州) * ペクチンV無加用	0	—	0.05	0.05	<0.05	<0.05
			3	30	10.40	10.00	8.62	7.58
			5	30	18.00	17.40	12.50	12.00
			5	60	7.36	7.10	7.83	6.92
みかん (露地) (ホル) 昭和57年度	水和剤(80%) 800倍 300g/10a + ペクチンV 600倍	宮崎総農試 (早生温州) * ペクチンV無加用	0	—	<0.05		<0.05	
			3	29	1.07		0.58	
			5	29	1.61		0.62	
			5	60	0.92		0.28	
	水和剤(80%) 800倍 600g/10a + ペクチンV 600倍	三重農技 紀南 (宮川早生温州) * ペクチンV無加用	0	—	<0.05		<0.05	
			3	30	2.72		2.24	
			5	30	4.73		3.28	
			5	60	1.94		2.00	
			5*	30			0.51	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(みかん)-6

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
みかん (露地) (果肉) 平成4年度	フロアブル (35%) 600倍 6000ℓ/10a 散布	日植防・根府川 (普通温州藤中系)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	30	0.02	0.02	0.01	0.01
			5	45	0.05	0.04	<0.01	<0.01
			5	60	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
	フロアブル (35%) 600倍 7000ℓ/10a 散布	日植防研・高知 (南柑4号)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	30	0.19	0.18	0.05	0.05
			5	45	0.05	0.04	0.02	0.02
			5	60	0.07	0.07	0.01	0.01
みかん (露地) (果皮) 平成4年度	フロアブル (35%) 600倍 6000ℓ/10a 散布	日植防・根府川 (普通温州藤中系)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	30	1.89	1.86	2.94	2.84
			5	45	1.56	1.5	1.55	1.5
			5	60	0.34	0.34	0.28	0.27
	フロアブル (35%) 600倍 7000ℓ/10a 散布	日植防研・高知 (南柑4号)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	30	4.42	4.2	6.09	6.08
			5	45	2.8	2.7	2.43	2.41
			5	60	1.85	1.83	2.08	2.04
みかん (露地) (ホ-ル) 平成4年度	フロアブル (35%) 600倍 6000ℓ/10a 散布	日植防・根府川 (普通温州藤中系)	0	—	<0.02		<0.02	
			5	30	0.42		0.60	
			5	45	0.40		0.35	
			5	60	0.08		0.06	
	フロアブル (35%) 600倍 7000ℓ/10a 散布	日植防研・高知 (南柑4号)	0	—	<0.02		<0.02	
			5	30	1.26		1.55	
			5	45	0.82		0.66	
			5	60	0.54		0.55	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(みかん)-7

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
みかん (施設) (果肉) 平成18年度	塗布剤 (5.0%) 原液	日植防研 高知試験場 (日南1号)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	30g/樹	大分肥料 植防協会 (宮川早生温州)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
みかん (施設) (果皮) 平成18年度	塗布剤 (5.0%) 原液	日植防研 高知試験場 (日南1号)	0	-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			3	7	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
	30g/樹	大分肥料 植防協会 (宮川早生温州)	0	-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			3	7	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (露地) (果肉) 昭和63年度	水和剤(80%) 800倍 5000ℓ/10a 散布	神奈川園試 (川野ツグイ)	0 5	— 50	<0.04 0.12	<0.04 0.12	<0.03 0.45	<0.03 0.42
	水和剤(80%) 800倍 7500ℓ/10a (15ℓ/樹) 散布	山口萩柑きつ試 (甘夏)	0 5	— 50	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.03 <0.03	<0.03 <0.03
夏みかん (露地) (果皮) 昭和63年度	水和剤(80%) 800倍 5000ℓ/10a 散布	神奈川園試 (川野ツグイ)	0 5	— 50	<0.1 17.8	<0.1 17.5	<0.05 20.0	<0.05 19.2
	水和剤(80%) 800倍 7500ℓ/10a (15ℓ/樹) 散布	山口萩柑きつ試 (甘夏)	0 5	— 50	<0.1 1.7	<0.1 1.6	<0.05 3.02	<0.05 2.89
夏みかん (露地) (果実) 昭和63年度 果実(ホウ)換算 値)	水和剤(80%) 800倍 5000ℓ/10a 散布	神奈川園試 (川野ツグイ)	0 5	— 50	<0.06 6.26		<0.04 7.64	
	水和剤(80%) 800倍 7500ℓ/10a (15ℓ/樹) 散布	山口萩柑きつ試 (甘夏)	0 5	— 50	<0.06 0.52		<0.04 0.17	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (露地・無袋) (果 肉) 平成5年度	フロアブル (35%) 600倍 5000ℓ/10a 散布	三重農技センター (新甘夏)	0	—			<0.01	<0.01
			5	31			0.34	0.34
			5	45			0.38	0.37
		愛媛果試 (川野夏橙)	0	—			<0.01	<0.01
			5	30			0.34	0.34
			5	45			0.22	0.22
夏みかん (露地・無袋) (果 皮) 平成5年度	フロアブル (35%) 600倍 5000ℓ/10a 散布	三重農技センター (新甘夏)	0	—			<0.01	<0.01
			5	31			3.73	3.63
			5	45			2.24	2.14
		愛媛果試 (川野夏橙)	0	—			<0.04	<0.04
			5	30			2.25	2.14
			5	45			1.73	1.68
夏みかん (露地・無袋) (ホ-ル) 平成5年度	フロアブル (35%) 600倍 5000ℓ/10a 散布	三重農技センター (新甘夏)	0	—			<0.01	
			5	31			1.26	
			5	45			0.92	
		愛媛果試 (川野夏橙)	0	—			0.01	
			5	30			1.05	
			5	45			0.72	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-3

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (露地) (果肉) 平成2年度	水和剤(50%) 800倍 5000/10a 散布	徳島果試 (川野ツグイ)	0	—			<0.03	<0.03
			3	30			<0.03	<0.03
			3	60			<0.03	<0.03
	水和剤(50%) 800倍 150/樹 (45樹/10a) 散布	熊本農研センター (川野ツグイ)	0	—			<0.03	<0.03
			3	29			<0.03	<0.03
			3	58			<0.03	<0.03
夏みかん (露地) (果皮) 平成2年度	水和剤(50%) 800倍 5000/10a 散布	徳島果試 (川野ツグイ)	0	—			<0.05	<0.05
			3	30			0.91	0.90
			3	60			0.67	0.64
	水和剤(50%) 800倍 150/樹 (45樹/10a) 散布	熊本農研センター (川野ツグイ)	0	—			<0.05	<0.05
			3	29			0.92	0.90
			3	58			0.59	0.56
夏みかん (露地) (果実) 平成2年度 果実 (ホ-換算値)	水和剤(50%) 800倍 5000/10a 散布	徳島果試 (川野ツグイ)	0	—			<0.04	
			3	30			0.34	
			3	60			0.28	
	水和剤(50%) 800倍 150/樹 (45樹/10a) 散布	熊本農研センター (川野ツグイ)	0	—			<0.04	
			3	29			0.33	
			3	58			0.22	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-4

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (果肉) 平成2年度	水和剤(50%) 500倍 5000/10a 散布	徳島果試	0	—			<0.03	<0.03
			3	30			<0.03	<0.03
			3	60			<0.03	<0.03
	水和剤(50%) 500倍 150/樹 (45樹/10a) 散布	熊本農研センター	0	—			<0.03	<0.03
			3	29			<0.03	<0.03
			3	58			<0.03	<0.03
夏みかん (果皮) 平成2年度	水和剤(50%) 500倍 5000/10a 散布	徳島果試	0	—			<0.05	<0.05
			3	30			1.16	1.13
			3	60			0.44	0.43
	水和剤(50%) 500倍 150/樹 (45樹/10a) 散布	熊本農研センター	0	—			<0.05	<0.05
			3	29			0.93	0.93
			3	58			0.81	0.78
夏みかん (果実) 平成2年度 果実 (換算値)	水和剤(50%) 500倍 5000/10a 散布	徳島果試	0	—			<0.04	
			3	30			0.45	
			3	60			0.18	
	水和剤(50%) 500倍 150/樹 (45樹/10a) 散布	熊本農研センター	0	—			<0.04	
			3	29			0.34	
			3	58			0.29	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-5

51

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (施設) (果肉) 平成6年度	フロアブル (35%) 600倍 500g/10a 散布	果樹試・興津 (甘夏)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	28	<0.02	<0.02	0.04	0.04
			5	42	0.03	0.03	<0.01	<0.01
			5	56	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
夏みかん (施設) (果肉) 平成7年度	フロアブル (35%) 600倍 400g/10a 散布	山口萩柑きつ試 (普通夏柑)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	27	<0.02	<0.02	0.10	0.10
			5	42	<0.02	<0.02	0.01	0.01
			5	55	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
夏みかん (施設) (果皮) 平成6年度	フロアブル (35%) 600倍 500g/10a 散布	果樹試・興津 (甘夏)	0	—	0.09	0.08	<0.05	<0.05
			5	28	17.5	17.4	31.07	30.06
			5	42	21.4	21.4	32.61	32.48
			5	56	17.1	17.1	18.43	15.06
夏みかん (施設) (果皮) 平成7年度	フロアブル (35%) 600倍 400g/10a 散布	山口萩柑きつ試 (普通夏柑)	0	—	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05
			5	27	7.08	7.01	13.25	12.10
			5	42	4.86	4.84	4.82	4.70
			5	55	2.43	2.40	4.14	4.14
夏みかん (施設) (果実) 平成6年度 果実 (ホ-換算値)	フロアブル (35%) 600倍 500g/10a 散布	果樹試・興津 (甘夏)	0	—			<0.02	
			5	28		0.04		8.73
			5	42		4.84		9.53
			5	56		5.90		5.92
夏みかん (施設) (果実) 平成7年度 果実 (ホ-換算値)	フロアブル (35%) 600倍 400g/10a 散布	山口萩柑きつ試 (普通夏柑)	0	—	<0.02		<0.02	
			5	27		2.60		4.65
			5	42		1.67		1.72
			5	55		0.87		1.54

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-6

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (露地・無袋) (果肉) 昭和63年度		静岡柑橘試 (川野夏橙)	0	—			<0.05	<0.05
			5	21			0.19	0.19
			5	30			0.48	0.46
			5	45			0.54	0.50
		トモ農薬生物研 (川野夏橙)	0	—			<0.05	<0.05
			5	21			0.19	0.19
5	30				0.15	0.14		
			5	45			0.71	0.68
夏みかん (露地・無袋) (果皮) 昭和63年度	水和剤(80%) 800倍 500g/10a 散布	静岡柑橘試 (川野夏橙)	0	—			<0.05	<0.05
			5	21			5.19	5.18
			5	30			2.83	2.79
			5	45			3.68	3.56
		トモ農薬生物研 (川野夏橙)	0	—			<0.05	<0.05
			5	21			3.06	3.06
5	30				2.66	2.58		
			5	45			3.62	3.60
夏みかん (露地・無袋) (ホル) 昭和63年度		静岡柑橘試 (川野夏橙)	0	—				<0.05
			5	21				2.26
			5	30				1.58
			5	45				1.42
		トモ農薬生物研 (川野夏橙)	0	—				<0.05
			5	21				1.44
5	30					1.20		
			5	45			2.16	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-7

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (露地・無袋) (果肉) 平成4年度	フロアブル (35%) 600倍 6000/10a 散布	愛媛果試 (新甘夏)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	30	0.38	0.37	<0.02	<0.02
			5	45	0.02	0.02	0.04	0.04
			5	60	0.06	0.06	0.02	0.02
		熊本農試 (川野夏橙)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	30	0.32	0.32	<0.02	<0.02
			5	45	0.26	0.25	0.03	0.02
			5	60	0.36	0.36	<0.02	<0.02
			5	60	0.36	0.36	<0.02	<0.02
夏みかん (露地・無袋) (果皮) 平成4年度	フロアブル (35%) 600倍 6000/10a 散布	愛媛果試 (新甘夏)	0	—	0.09	0.08	0.13	0.12
			5	30	4.80	4.74	6.86	6.85
			5	45	5.27	5.12	9.21	9.06
			5	60	4.11	4.00	5.53	5.46
		熊本農試 (川野夏橙)	0	—	<0.02	<0.22	<0.04	<0.04
			5	30	4.01	3.93	6.72	6.60
			5	45	3.65	3.60	6.05	6.04
			5	60	2.80	2.76	3.12	3.05
			5	60	2.80	2.76	3.12	3.05
夏みかん (露地・無袋) (ホ-ル) 平成4年度	フロアブル (35%) 600倍 6000/10a 散布	愛媛果試 (新甘夏)	0	—	0.03	0.03	0.05	0.05
			5	30	1.93	1.93	2.65	2.65
			5	45	2.23	2.23	3.66	3.66
			5	60	1.68	1.68	2.56	2.56
		熊本農試 (川野夏橙)	0	—	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04
			5	30	1.50	1.50	2.27	2.27
			5	45	1.41	1.41	2.15	2.15
			5	60	1.17	1.17	1.19	1.19
			5	60	1.17	1.17	1.19	1.19

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネシヨウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-8

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (露地・無袋) (果肉) 平成4年度		徳島植防 (新甘夏)	0	—			<0.02	<0.02
			5	30			0.04	0.04
			5	45			0.04	0.04
			5	59			0.03	0.02
		大分柑試津久見 (甘夏)	0	—			<0.02	<0.02
			5	30			0.03	0.02
5	45				0.04	0.04		
夏みかん (露地・無袋) (果皮) 平成4年度	水和剤(60%) 600倍 500ℓ/10a 散布	徳島植防 (新甘夏)	0	—			<0.04	<0.04
			5	30			8.09	7.98
			5	45			8.44	8.36
			5	59			6.16	6.10
		大分柑試津久見 (甘夏)	0	—			0.06	0.06
			5	30			7.75	7.68
5	45				10.70	10.70		
夏みかん (露地・無袋) (ホ-ル) 平成4年度		徳島植防 (新甘夏)	0	—			<0.04	
			5	30			2.60	
			5	45			2.68	
			5	59			2.02	
		大分柑試津久見 (甘夏)	0	—			0.02	
			5	30			2.86	
5	45				3.73			
			5	60			2.12	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-9

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
夏みかん (露地・無袋) (果肉) 平成5年度	水和剤(60%) 600倍 500g/10a 散布	三重農技センター (新甘夏)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
			5	30	0.16	0.16	0.67	0.66	
			5	45	0.30	0.29	0.42	0.42	
		愛媛果試 (川野夏橙)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
			5	31	0.12	0.12	0.35	0.35	
			5	47	0.10	0.10	0.23	0.23	
		愛媛果試 (川野夏橙)	5	61	0.21	0.20	0.29	0.28	
			三重農技センター (新甘夏)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
				5	30	7.74	7.36	0.67	0.66
5	45	5.57		5.48	0.42	0.42			
愛媛果試 (川野夏橙)	5	60	1.33	1.30	0.23	0.22			
	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01			
	5	31	5.38	5.12	2.28	2.24			
愛媛果試 (川野夏橙)	5	47	1.53	1.53	2.78	2.66			
	5	61	1.73	1.68	1.53	1.46			
	三重農技センター (新甘夏)	0	—			<0.01			
5		30			2.04				
5		45			1.10				
愛媛果試 (川野夏橙)	5	60			0.73				
	0	—			0.01				
	5	31			0.49				
愛媛果試 (川野夏橙)	5	47			1.07				
	5	61			0.71				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-10

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (露地・無袋) (果肉) 平成5年度	水和剤(80%) 800倍 5000/10a 散布	千葉園試 (川野夏橙)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	30	0.04	0.04	0.05	0.05
			5	45	0.07	0.06	0.06	0.06
			5	59	0.03	0.03	0.04	0.04
		静岡柑試 (川野夏橙)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	31	0.13	0.13	0.15	0.15
			5	47	0.07	0.07	0.08	0.08
			5	61	0.13	0.12	0.09	0.08
夏みかん (露地・無袋) (果皮) 平成5年度	水和剤(80%) 800倍 5000/10a 散布	千葉園試 (川野夏橙)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	30	4.24	3.72	5	4.92
			5	45	3.68	3.54	4.28	4.24
			5	59	2.75	2.72	4.19	4.18
		静岡柑試 (川野夏橙)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	31	8.51	7.76	8.13	8.03
			5	47	5.81	5.34	8.13	8.12
			5	61	5.97	5.92	7.95	7.88
夏みかん (露地・無袋) (ホ-ル) 平成5年度	水和剤(80%) 800倍 5000/10a 散布	千葉園試 (川野夏橙)	0	—	<0.02		<0.02	
			5	30	1.09		1.29	
			5	45	0.97		1.12	
			5	59	0.71		1.08	
		静岡柑試 (川野夏橙)	0	—	<0.02		<0.02	
			5	31	2.23		2.15	
			5	47	1.51		2.09	
			5	61	1.59		2.06	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-11

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (露地・無袋) (果肉) 平成20年度	水和剤(80%) 800倍 5000/10a 散布	三重植防 (新甘夏)	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	30	0.09	0.08	<0.03	<0.03
			3	60	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	90	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
	水和剤(80%) 800倍 7000/10a 散布	和歌山植防 (川野夏橙)	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	30	0.12	0.12	0.08	0.08
			3	60	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	90	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
夏みかん (露地・無袋) (果皮) 平成20年度	水和剤(80%) 800倍 5000/10a 散布	三重植防 (新甘夏)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	30	4.83	4.82	3.80	3.78
			3	60	1.38	1.38	1.91	1.88
			3	90	0.34	0.34	0.27	0.27
	水和剤(80%) 800倍 7000/10a 散布	和歌山植防 (川野夏橙)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	30	7.30	7.10	7.51	7.46
			3	60	2.21	2.16	2.81	2.77
			3	90	1.06	1.04	0.84	0.84
夏みかん (露地・無袋) (ホール) 平成20年度	水和剤(80%) 800倍 5000/10a 散布	三重植防 (新甘夏)	0	—	<0.05			
			3	30	1.43		1.21	
			3	60	0.41		0.58	
			3	90	0.11		0.08	
	水和剤(80%) 800倍 7000/10a 散布	和歌山植防 (川野夏橙)	0	—	<0.05			
			3	30	2.34		2.51	
			3	60	0.72		1.00	
			3	90	0.32		0.26	

網掛けは、残留基準値の上方修正に対応する試験成績

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(夏みかん)-12

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
夏みかん (露地・無袋) (果 肉) 平成1年度	塗布剤(5%) 原液 剪定枝に塗布	静岡柑橘試 (川野夏橙)	0 1	- 216			<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
		トモノ農薬 生物研究所 (川野夏橙)	0 1	- 192			<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
夏みかん (露地・無袋) (果 皮) 平成1年度		静岡柑橘試 (川野夏橙)	0 1	- 216			<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
		トモノ農薬 生物研究所 (川野夏橙)	0 1	- 192			<0.05 <0.05	<0.05 <0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ゆ ず)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
ゆ ず (露 地) (果 実) 平成6年度	35%水和剤 (フロアブル) 600倍 5000/10a 散 布	徳島植防 (在来選抜系)	0	—			<0.01	<0.01		
			5	28			4.35	4.30		
			5	42			3.66	3.62		
					5	56			2.27	2.24
		大分植防 (在来種)	0	—			<0.01	<0.01		
			5	28			8.70	8.54		
			5	42			5.36	5.32		
			5	56			5.02	4.86		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(すだち、かぼす)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
すだち (露地・無袋) (果実) 平成19年度	水和剤(80%) 800倍 500g/10a 散布	徳島植防 (神山選抜系統)	0	—			<0.01	<0.01
			3	30			0.79	0.78
			3	60			0.02	0.02
			3	90			<0.01	<0.01
かぼす (露地・無袋) (果実) 平成19年度	水和剤(80%) 800倍 600g/10a 散布	大分農林水産 研究センター (香美の川)	0	—			<0.01	<0.01
			3	30			2.42	2.40
			3	60			0.09	0.09
			3	90			<0.01	<0.01

網掛は、残留基準値の上方修正に対応する試験成績

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(りんご)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
りんご (露地・無袋) (果実) 昭和47年度	水和剤 (50%) 750倍 500ℓ/10a 散布	岩手園試 (ふじ)	0	—			0.124	0.12	
			4	89			0.152	0.14	
			4	100			0.120	0.11	
	水和剤 (50%) 600倍 400ℓ/10a 散布	長野農試 (国光)	0	—			0.106	0.10	
			4	8			1.264	1.16	
			4	15			0.836	0.80	
			6	7			1.768	1.71	
			6	16			1.312	1.21	
りんご (露地・無袋) (果実) 昭和61年	水和剤 (80%) 800倍 500ℓ/10a 散布	青森 りんご試験場 (つがる)	0	—	0.06	0.05	0.01	0.01	
			4	14	0.71	0.70	0.60	0.58	
			4	21	0.36	0.34	0.35	0.34	
			4	28	0.47	0.44	0.17	0.17	
			5	14	0.65	0.64	0.54	0.53	
			5	21	0.83	0.80	0.29	0.28	
			5	28	0.47	0.45	0.28	0.28	
			7	14	0.57	0.56	0.56	0.54	
			7	21	0.61	0.60	0.33	0.32	
			7	28	0.42	0.42	0.30	0.30	
	水和剤 (80%) 800倍 500ℓ/10a 散布	長野植防研 南信分室 (つがる)	0	—	0.09	0.08	0.02	0.02	
			4	14	0.28	0.28	0.24	0.23	
			4	21	0.06	0.06	0.10	0.10	
			4	28	0.08	0.08	0.04	0.04	
			5	14	0.28	0.28	0.33	0.32	
			5	21	0.33	0.32	0.24	0.22	
			5	28	0.15	0.14	0.09	0.08	
			7	14	0.42	0.41	0.29	0.28	
			7	21	0.30	0.29	0.24	0.22	
			7	28	0.19	0.18	0.15	0.15	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(りんご) - 2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
りんご (露地・無袋) (果実) 平成3年度	35%水和剤 (7077 [®] ル) 800倍 400g/10a 散布	岩手園試 (ふじ)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			7	14	0.24	0.23	0.30	0.29
			7	21	0.15	0.14	0.22	0.22
			7	28	0.19	0.18	0.24	0.24
	35%水和剤 (7077 [®] ル) 1000倍 400g/10a 散布	岩手園試 (ふじ)	7	14	0.19	0.19	0.26	0.26
			7	21	0.13	0.12	0.17	0.16
			7	28	0.20	0.19	0.28	0.26
			35%水和剤 (7077 [®] ル) 800倍 400g/10a 散布	茨城 山間特産指導所 (ふじ)	0	-	<0.05	<0.05
	7	14			0.53	0.51	0.48	0.47
	7	21			0.45	0.44	0.40	0.40
	7	28			0.38	0.36	0.33	0.32
	35%水和剤 (7077 [®] ル) 1000倍 400g/10a 散布	茨城 山間特産指導所 (ふじ)	7	14	0.33	0.32	0.43	0.42
7			21	0.25	0.24	0.30	0.30	
7			28	0.35	0.34	0.19	0.18	
(露地・無袋) (果実) 平成18年度	5%塗布剤 原液30~50 g/樹剪定枝及 び樹幹に塗布	日植防研・秋田 (ジヨコ [®] ールト)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	5%塗布剤 原液30g/樹 剪定枝及び樹 幹に塗布	福島植防 (ふじ)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(りんご) - 3

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
りんご (無袋) (果実) 昭和46年度	水和剤(40%) 400倍 300ℓ/1樹 散布	秋田果試 (ゴールデンデリシャス)	0	—			0.009	0.005
			4	86			0.008	0.008
			8	35			0.042	0.034
			8	44			0.025	0.025
			8	59			0.025	0.022
			8	59			0.025	0.022
	水和剤(40%) 400倍 700ℓ/10a 散布	長野園試 (紅玉)	0	—			<0.007	<0.007
			4	47			0.030	0.030
			4	60			0.019	0.012
			4	74			0.009	0.008
			8	30			0.029	0.025
			8	46			0.087	0.057
			8	60			0.009	0.009
			8	60			0.009	0.009
りんご (無袋) (果実) 昭和47年度	水和剤(40%) 600倍(1~4回) 400倍(5~8回) 5400ℓ/10a 散布	青森畑作園試 (国光)	0	—			0.008	0.008
			8	10			0.310	0.253
			8	20			0.240	0.202
			8	30			0.146	0.123
			8*	10			0.111	0.096
	水和剤(40%) 600倍 5000ℓ/10a 散布	青森りんご試 (紅玉)	0	—			0.008	0.007
			9	11			0.369	0.329
			9	20			0.141	0.128
			9	30			0.083	0.072
			9*	11			0.072	0.064
りんご (無袋) (果実) 昭和47年度	塗布剤(5%) 原液塗布	長野園試	0	—	0.01	0.01	0.010	0.010
			1	89	0.01	0.01	0.016	0.013
			3	14	<0.01	<0.01	0.010	0.009
	塗布剤(5%) 原液塗布 300g/1枝	秋田果試花輪分場	0	—	<0.01	<0.01	0.010	0.009
			1	137	0.01	0.01	0.009	0.008
			3	29	<0.01	<0.01	0.008	0.008

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(りんご)-4

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
りんご (無袋) (果実) 昭和61年度	水和剤(80%) 800倍 500g/10a 散布	岩手園試 (スターキング)	0	—	0.06	0.06	0.03	0.02	
			4	14	0.78	0.76			
			4	21	0.55	0.55			
			4	28	0.26	0.26			
			5	14	0.87	0.86	1.06	1.04	
			5	21	0.55	0.52	0.56	0.50	
			5	28	0.22	0.22	0.26	0.26	
			7	14	0.87	0.86	0.81	0.80	
			7	21	0.98	0.94	0.72	0.70	
		7	28	0.64	0.62	0.44	0.42		
		山形園試 (つがる)	0	—	0.10	0.10	0.08	0.08	
			4	16	1.38	1.36			
			4	23	1.27	1.22			
			4	30	0.59	0.57			
			5	16	1.11	1.06	1.41	1.40	
			5	23	0.95	0.90	1.45	1.39	
			5	30	0.49	0.46	0.42	0.40	
			7	16	1.60	1.58	1.88	1.78	
7	23		1.28	1.22	1.23	1.20			
7	30	0.74	0.70	0.74	0.68				
りんご (無袋) (果実) 平成2年度	フロアブル (35%) 800倍 400g/10a 散布	茨城山間特指 (つがる) *1000倍	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			5*	14			0.63	0.60	
			5*	21			0.82	0.80	
			5*	28			0.33	0.32	
			7	14	0.63	0.60	0.80	0.80	
			7	21	0.67	0.60	0.70	0.70	
			7	28	0.57	0.54	0.65	0.64	
			長野植防南信 (つがる) *1000倍	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				5*	14			<0.05	<0.05
		5*		21			0.48	0.47	
		5*		28			0.28	0.26	
		7		14	0.38	0.36	0.42	0.41	
		7		21	0.28	0.27	0.50	0.48	
		7		28	0.32	0.32	0.22	0.21	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(りんご)-5

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
りんご (露地・無袋) (果実) 平成20年度	水和剤(80%) 800倍 500g/10a 散布	青森植防 (つがる)	0	—			<0.05	<0.05
			4	7			1.60	1.57
			4	14			1.09	1.08
			4	21			0.96	0.96
		石川植防 (つがる)	0	—			<0.05	<0.05
			4	7			0.93	0.92
			4	14			0.39	0.38
			4	21			0.38	0.38

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(なし)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
なし (露地・無袋) (果実) 昭和55年	水和剤 (有機 銅:50%) 750倍 5回目まで: 3500/10a 6回以降: 4000/10a 散布	鳥取果試 (長十郎)	0	—	<0.05	<0.05	<0.03	<0.03
			9	3	0.90	0.89	0.99	0.95
			9	7	0.58	0.58	0.39	0.36
			9	14	0.17	0.17	0.16	0.14
	水和剤 (有機 銅:50%) 750倍 2500/10a 散布	埼玉園試 (二十世紀)	0	—	<0.05	<0.05	0.03	0.03
			9	3	0.60	0.58	0.74	0.74
			9	7	0.68	0.67	0.67	0.64
			9	14	0.60	0.60	0.52	0.48
なし (無袋) (果実) 平成3年度	35%水和剤 (フロアブル) 800倍 4000/10a 散布	福島植防 (豊水)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			7	3	1.13	1.08	0.94	0.93
			7	7	0.81	0.81	0.54	0.52
			7	14	0.38	0.36	0.43	0.42
	35%水和剤 (フロアブル) 1000倍 4000/10a 散布	福島植防 (豊水)	7	3	0.71	0.69	0.79	0.78
			7	7	0.41	0.40	0.26	0.25
			7	14	0.33	0.32	0.25	0.24
			35%水和剤 (フロアブル) 800倍 4000/10a 散布	鳥取植防 (幸水)	2+0	—	<0.05	<0.05
	2+7	3			0.55	0.52	0.48	0.46
	2+7	7			0.35	0.34	0.19	0.18
	2+7	14			0.17	0.16	0.13	0.12
	35%水和剤 (フロアブル) 1000倍 4000/10a 散布	鳥取植防 (幸水)	2+7	3	0.92	0.91	0.91	0.91
2+7			7	0.21	0.20	0.29	0.29	
2+7			14	0.13	0.12	0.16	0.16	
※								

※ 80%水和剤 1600倍 2回散布後フロアブル7回散布

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(なし)-2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
なし (露地・無袋) (果実) 平成4年度	フロアブル (35%) 800倍 500g/10a 散布	鯉渕学園 (幸水)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			9	3	1.02	1.02	0.95	0.86
			9	7	0.61	0.60	0.56	0.56
			9	14	0.29	0.28	0.28	0.28
なし (露地・無袋) (果実) 平成4年度	フロアブル (35%) 1000倍 400g/10a 散布	徳島植防 (豊水)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			9	3	0.70	0.68	0.79	0.78
			9	7	0.44	0.44	0.55	0.53
			9	14	0.38	0.38	0.29	0.28
なし (露地・無袋) (果実) 平成5年度	フロアブル (35%) 1000倍 500g/10a 散布	福井農試 (幸水)	0	—			<0.05	<0.05
			9	3			0.91	0.88
			9	7			0.54	0.52
			9	14			0.63	0.63
なし (無袋) (果実) 昭和48年度	水和剤(30%) 450倍 450g/10a 散布	兵庫農試 (二十世紀)	0	—	<0.02	<0.02	0.02	0.02
			9	1	0.21	0.18	0.29	0.28
			9	3	0.23	0.20	0.26	0.25
			9	7	0.19	0.18	0.28	0.26
なし (無袋) (果実) 昭和48年度	水和剤(30%) 450倍 400g/10a 散布	鳥取果試 (二十世紀)	0	—	<0.02	<0.02	0.02	0.02
			16	6	0.21	0.20	0.39	0.38
なし (無袋) (果実) 昭和49年度	水和剤(30%) 450倍 400g/10a 散布	鳥取果試 (長十郎)	0	—	0.010	0.009	0.010	0.009
			9	1	0.094	0.089	0.112	0.100
			9	3	0.034	0.028	0.035	0.032
			9	7	0.100	0.084	0.126	0.110
			16	1	0.101	0.096	0.145	0.123
			16	3	0.140	0.132	0.160	0.152
			16	7	0.084	0.072	0.107	0.089

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(なし)-3

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
なし (無袋) (果実) 昭和54年度	水和剤(40%) 600倍 400g/10a 散布	茨城園試 (幸水)	0	-	0.07	0.07	<0.01	<0.01
			16	1	1.12	1.11	0.79	0.78
			16	3	0.94	0.9	0.77	0.74
			16	7	0.72	0.72	0.51	0.50
なし (無袋) (果実) 昭和63年度	水和剤(12%) 40倍 200g/10a 散布	栃木農試 (幸水)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	166	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		三重農技センター (長十郎)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	190	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
なし (無袋) (果実) 平成1年度	フロアブル (35%) 800倍 300g/10a 散布	長野植防南信 (幸水)	0	-			0.08	0.08
			5	3			0.28	0.25
			5	7			0.19	0.18
			5	14			0.16	0.14
			7	3			0.39	0.38
			7	7			0.32	0.29
			7	14			0.09	0.08
	フロアブル (35%) 800倍 400g/10a 散布	石川植防 (幸水)	0	-			<0.05	<0.05
			5	3			0.24	0.24
			5	7			0.22	0.21
			5	13			<0.05	<0.05
			7	3			0.36	0.34
			7	7			0.28	0.26
			7	13			0.13	0.12

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(な し)-4

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
なし (露地・無袋) (果実) 平成20年度	塗布剤(5%) 原液 30g/樹 剪定切り口及 び樹幹部に塗 布	福島植防 (幸水)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	塗布剤(5%) 原液 30~35g/樹 剪定切り口及 び樹幹部に塗 布	福井植防 (豊水)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(もも)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
もも (露地・有袋) (果肉) 昭和53年度	30%水和剤 500倍 400ℓ/10a 散布	長野農試	0 5	— 112	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
	30%水和剤 500倍 300ℓ/10a 散布	岡山農試	0 5	— 86	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
もも (露地・有袋) (果皮) 昭和53年度	30%水和剤 500倍 400ℓ/10a 散布	長野農試	0 5	— 112	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
	30%水和剤 500倍 300ℓ/10a 散布	岡山農試	0 5	— 86	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.04 <0.04	<0.04 <0.04
もも (露地) (果肉) 平成7年度	フロアブル (35%) 800倍 600ℓ/10a 散布	福島植防 (あかつき)	0 5	— 110	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
	フロアブル (35%) 800倍 500ℓ/10a 散布	岡山農試 (白鳳)	0 5	— 110	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
もも (露地) (果皮) 平成7年度	フロアブル (35%) 800倍 600ℓ/10a 散布	福島植防 (あかつき)	0 5	— 110	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
	フロアブル (35%) 800倍 500ℓ/10a 散布	岡山農試 (白鳳)	0 5	— 110	<0.02 <0.02	<0.02 <0.02	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(もも)-2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
もも (露地・無袋) (果肉) 昭和53年度	水和剤(30%) 375倍 600ℓ/10a 散布	山梨果試 (大久保)	0	—	0.03	0.02	<0.02	<0.02
			3	118	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
もも (露地・無袋) (果皮) 昭和53年度	水和剤(30%) 375倍 600ℓ/10a 散布	山梨果試 (大久保)	0	—	0.04	0.02	<0.04	<0.04
			3	118	0.04	0.02	<0.04	<0.04
もも (露地・無袋) (果肉) 平成6年度	水和剤(60%) 750倍 400ℓ/10a 散布	群馬園試 (あかつき)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		*+ ^o クV 200倍	5	103	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
もも (露地・無袋) (果皮) 平成6年度	水和剤(60%) 750倍 400ℓ/10a 散布	徳島農試 (紅清水白桃)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		*+ ^o クV 200倍	5	103	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
もも (露地・無袋) (果皮) 平成6年度	水和剤(60%) 750倍 400ℓ/10a 散布	群馬園試 (あかつき)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		*+ ^o クV 200倍	5	103	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
もも (露地・無袋) (果皮) 平成6年度	水和剤(60%) 750倍 400ℓ/10a 散布	徳島農試 (紅清水白桃)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		*+ ^o クV 200倍	5	103	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(もも)-3

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
もも (露地・無袋) (果肉) 平成21年度	フロアブル (35%) 430倍 5000/10a 散布	福島植防 (日川白鳳)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	57	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	60	<0.01	<0.01	0.03	0.02
			5	64	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	フロアブル (35%) 430倍 3000/10a 散布	和歌山植防 (日川白鳳)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	57	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	60	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	64	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
もも (露地・無袋) (果皮) 平成21年度	フロアブル (35%) 430倍 5000/10a 散布	福島植防 (日川白鳳)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	57	0.07	0.06	<0.05	<0.05
			5	60	0.08	0.08	<0.05	<0.05
			5	64	0.07	0.07	<0.05	<0.05
	フロアブル (35%) 430倍 3000/10a 散布	和歌山植防 (日川白鳳)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	57	0.13	0.12	0.08	0.08
			5	60	0.11	0.11	0.05	0.05
			5	64	0.11	0.10	0.07	0.06
もも (露地・無袋) (果肉) 平成20年度	塗布剤(5%) 30g/樹 原液塗布	福島植防 (日川白鳳)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	塗布剤(5%) 45~60g/樹 原液塗布	和歌山植防 (白鳳)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
もも (露地・無袋) (果皮) 平成20年度	塗布剤(5%) 30g/樹 原液塗布	福島植防 (日川白鳳)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	塗布剤(5%) 45~60g/樹 原液塗布	和歌山植防 (白鳳)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ネクタリン)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ネクタリン (露地・無袋) (果実) 平成16年度	水和剤(80%) 1000倍 3000/10a 散布	福島果試 (ファンダリア)	0	—			<0.01	<0.01
			1	143			<0.01	<0.01
ネクタリン (露地・無袋) (果実) 平成17年度	水和剤(80%) 1000倍 3000/10a 散布	福島果試 (ファンダリア)	0	—			<0.01	<0.01
			1	142			<0.01	<0.01
ネクタリン (露地・無袋) (果実) 平成17年度	水和剤(60%) 1000倍 4000/10a 散布	山梨果試 (黎明)	0	—	<0.05	<0.05		
			5	116	<0.05	<0.05		
		長野植防協会 須坂研究所 (メイランド)	0	—	<0.05	<0.05		
			5	87	<0.05	<0.05		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(おうとう)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
おうとう (施設) (果実) 昭和60年度	水和剤(30%) 350倍 700g/10a 散布	山形園試 (ホレオン)	0	—			<0.01	<0.01
			3	283			<0.01	<0.01
おうとう (露地) (果実) 昭和60年度	水和剤(30%) 350倍 700g/10a 散布	山梨果試 (高砂)	0	—			<0.01	<0.01
			3	254			<0.01	<0.01
おうとう (露地) (果実) 平成4年度	水和剤(30%) 600倍 700g/10a 散布	山形園試 (佐藤錦)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	291	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
おうとう (施設・無袋) (果実) 平成9年度	A: 水和剤 (80%) 1200倍 700g/10a 3回散布	福島植防 (佐藤錦)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			6(A+B)	14	5.50	5.38	4.88	4.86
おうとう (施設・無袋) (果実) 平成9年度	B: フロアブル (35%) 700倍 700g/10a 3回散布	長野植防 須坂 (佐藤錦)	6(A+B)	21	4.21	4.20	3.00	2.99
			3(B)	315	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			6(A+B)	14	1.66	1.64	1.66	1.64
おうとう (施設・無袋) (果実) 平成9年度	水和剤(30%) 600倍 400g/10a 散布	福島植防 (佐藤錦)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	293	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
おうとう (施設・無袋) (果実) 平成9年度	A: 水和剤 (80%) 1200倍 700g/10a 3回散布	福島植防 (佐藤錦)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			6(A+B)	14	5.50	5.38	4.88	4.86
			6(A+B)	21	4.21	4.20	3.00	2.99
			3(B)	315	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
おうとう (施設・無袋) (果実) 平成9年度	B: フロアブル (35%) 700倍 700g/10a 3回散布	長野植防 須坂 (佐藤錦)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			6(A+B)	14	1.66	1.64	1.66	1.64
			6(A+B)	21	0.75	0.74	0.79	0.77
			3(B)	277	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(おうとう)-2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
おうとう (施設・無袋) (果実) 平成19年度	フロアブル (35%) 700倍 400ℓ/10a 散布	岩手植防 (香夏錦)	0	—			<0.05	<0.05
			3	314			<0.05	<0.05
			3	317			<0.05	<0.05
			3	321			<0.05	<0.05
	日本植防研 秋田試験地 (佐藤錦)	0	—			<0.05	<0.05	
		3	300			<0.05	<0.05	
		3	303			<0.05	<0.05	
			3	307			<0.05	<0.05
おうとう (施設・無袋) (果実) 平成21年度	水和剤(80%) 1200倍 400ℓ/10a 散布	青森植防 (高砂)	0	—			<0.01	<0.01
			3	226			<0.01	<0.01
	水和剤(80%) 1200倍 403ℓ/10a 散布	岩手植防 (香夏錦)	0	—			<0.01	<0.01
			3	270			<0.01	<0.01
おうとう (施設・無袋) (果実) 平成20年度	塗布剤(5%) 30、35g/樹 原液塗布	日植防研 秋田 (佐藤錦)	0	—			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
	塗布剤(5%) 30g/樹 原液塗布	福島植防 (高砂)	0	—			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(うめ)-2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
うめ (無袋) (果実) 平成 20 年度	塗布剤(5%) 30g/樹 原液塗布	和歌山植防 (南高)	0 3	- 7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
うめ (無袋) (果実) 平成 21 年度	塗布剤(5%) 30g/樹 原液塗布	奈良植防 (南高)	0 3	- 7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ぶどう) -1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ぶどう (露地・無袋) (果実) 昭和49年度	水和剤(40%) 600倍 250g/10a 散布	岡山農試 (キャンベルアーリー)	0	—			0.07	0.02
			6	14			4.36	4.30
			6	28			6.36	6.22
			6	40			0.74	0.67
	水和剤(40%) 600倍 200g/10a 散布	長野農試 桔梗ヶ原分場 (キャンベルアーリー)	0	—			0.05	0.04
			6	14			2.44	2.34
			6	28			1.81	1.71
			6	50			0.24	0.29
ぶどう (露地・無袋) (果実) 昭和53年度	水和剤(40%) 600倍 300g/10a 散布	山形砂丘地 (テラウエア)	0	—	0.05	0.03	<0.007	<0.007
			1	39	1.54	1.48	0.670	0.670
			1	61	0.96	0.94	0.660	0.620
			1	76	<0.04	<0.04	0.280	0.260
	水和剤(50%) 600倍 200g/10a 散布	山梨果試 (テラウエア)	0	—	<0.04	<0.04	<0.007	<0.007
			1	40	1.02	1.00	0.740	0.680
			1	60	<0.04	<0.04	0.052	0.048
			1	76	<0.04	<0.04	0.028	0.020
ぶどう (露地・無袋) (果実) 平成2年度	水和剤(40%) 600倍 200g/10a 散布	秋田果試天王 (テラウエア)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	38	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	46	0.09	0.08	0.12	0.11
			0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	山梨果試 (テラウエア)	3	60	0.06	<0.05	<0.05	<0.05	
		4	45	0.27	0.24	0.20	0.20	
ぶどう (露地・無袋) (果実) 平成4年度	フロアブル (35%) 600倍 300g/10a 散布	石川砂丘地 (テラウエア)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			4	45	0.14	0.13	0.12	0.12
フロアブル (35%) 600倍 200g/10a 散布	大阪農技センター (テラウエア)	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
		4	45	0.32	0.32	0.32	0.32	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ぶどう)-2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ぶどう (施設・無袋) (果実) 平成16年度	フロアブル (30%) 250倍 2500/10a 散布	秋田果試天王 (テラウエア)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	87	0.16	0.16	0.13	0.12
ぶどう (施設・無袋) (果実) 平成20年度	フロアブル (30%) 250倍 3000/10a 散布	長野中信農試 (巨峰)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	107	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
ぶどう (施設・無袋) (果実) 平成21年度	フロアブル(35%) 290倍 + 525倍 3000/10a 散布	石川植防 (テラウエア)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4(3+1)	14	0.28	0.28	0.30	0.30
			4(3+1)	28	0.58	0.57	0.35	0.34
			4(3+1)	42	0.39	0.38	0.20	0.20
			4(3+1)	56	0.07	0.07	0.11	0.11
ぶどう (施設・無袋) (果実) 平成21年度	フロアブル(35%) 290倍 + 525倍 3000/10a 散布	長野植防 (巨峰)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4(3+1)	14	0.98	0.97	0.96	0.95
			4(3+1)	28	0.30	0.30	0.26	0.25
			4(3+1)	42	0.43	0.42	0.36	0.36
			4(3+1)	56	0.45	0.45	0.42	0.40

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(か き)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
かき (果実) 昭和53年度	50%水和剤 400倍 400g/10a 散布	愛媛果試 (愛宕)	0	—	<0.04	<0.04	<0.02	<0.02
			9	14	0.11	0.10	0.18	0.18
			9	21	0.11	0.10	0.08	0.08
	50%水和剤 400倍 600g/10a 散布	和歌山果園試 (富有)	0	—	<0.04	<0.04	<0.02	<0.02
			9	14	0.75	0.72	1.67	1.64
			9	21	0.49	0.43	0.58	0.55
かき (露地・無袋) (果実) 平成4年度	50%水和剤 400倍 500g/10a 散布	山形砂丘地農試 (平核無)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	0.87	0.86	1.25	1.22
			5	14	0.57	0.56	0.78	0.76
			5	21	0.52	0.50	0.80	0.78
			5	28	0.60	0.60	0.53	0.53
	50%水和剤 400倍 400g/10a 散布	奈良農試 (松本早生富有)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	1.99	1.98	2.26	2.24
			5	14	0.75	0.74	0.90	0.85
			5	21	0.87	0.82	0.98	0.96
			5	28	0.98	0.95	0.97	0.95

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(か き)-2

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
かき (露地・無袋) (果実) 平成4年度	フロアブル (35%) 600倍 500L/10a 散布	山形砂丘地農試 (平核無)	0	—	<0.01	<0.01			
			5	7	0.83	0.82			
			5	14	0.93	0.92			
	フロアブル (35%) 800倍 500L/10a 散布		5	7	0.70	0.70			
			5	14	0.46	0.46			
			5	21	0.10	0.10			
			5	28	0.06	0.06			
かき (露地・無袋) (果実) 平成5年度	フロアブル (35%) 600倍 500L/10a 散布	新潟園試 (平核無)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			5	7	0.87	0.86	1.38	1.38	
			5	14	0.35	0.34	0.79	0.76	
	フロアブル (35%) 800倍 500L/10a 散布		5	7	0.62	0.61	0.62	0.61	
			5	14	0.40	0.40	0.42	0.42	
			5	21	0.14	0.14	0.13	0.13	
			5	28	0.03	0.03	0.08	0.06	
	フロアブル (35%) 600倍 400L/10a 散布		徳島果試・県北 (富有)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				5	7	0.97	0.96	1.36	1.34
				5	14	0.30	0.30	0.70	0.68
				5	7	0.68	0.66	1.44	1.33
5		14		0.10	0.10	0.36	0.34		
5		21		0.14	0.14	0.27	0.26		
5		28		0.06	0.06	0.15	0.15		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(か き)-3

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
かき (露地・無袋) (果実) 昭和63年度	水和剤(80%) 800倍 600g/10a 散布	長野植防南信 (市田柿)	0	-			<0.05	<0.05
			5	14			0.36	0.32
			5	21			0.42	0.40
			5	30			0.23	0.22
	水和剤(80%) 800倍 300g/10a 散布	新潟佐渡農技 (平核無)	0	-			<0.05	<0.05
			5	14			0.26	0.24
			5	21			0.11	0.10
			5	30			<0.05	<0.05
かき (露地・無袋) (果実) 平成4年度	フロアブル (35%) 500倍 300g/10a 散布	福井園試 (富有)	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	14	0.65	0.64	0.56	0.56
			5	21	0.44	0.43	0.38	0.37
			5	30	0.05	0.05	0.18	0.18
	フロアブル (35%) 500倍 500g/10a 散布	岐阜植防 (松本早生富有)	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			5	14	0.23	0.22	0.52	0.50
			5	21	0.17	0.16	0.21	0.20
			5	30	0.32	0.32	0.28	0.28
かき (露地・無袋) (果実) 平成18年度	塗布剤(5%) 原液40g/樹 剪定枝及び樹 幹に塗布	岐阜植防 (富有)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	塗布剤(5%) 原液50g/樹 剪定枝及び樹 幹に塗布	奈良植防 (富有)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(マンゴー)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
マンゴー (施設・無袋) (果実) 平成17年度	塗布剤(5%) 4g/樹 原液塗布	宮崎総農試・西都 (アーウィン)	0	-	<0.2	<0.2		
			1	60	<0.2	<0.2		
マンゴー (施設・無袋) (果実) 平成17年度	塗布剤(5%) 2g/樹 原液塗布	宮崎総農試・野尻 (アーウィン)	0	-	<0.2	<0.2		
			1	60	<0.2	<0.2		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(いちじく)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
いちじく (露地・無袋) (果実) 平成15年度	フロアブル (35%) 600倍 2200/10a 散布	島根県簸川郡 多伎町 (蓬萊柿)	0	—	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			3	63	<0.05	<0.05	0.03	0.03
			3	77	<0.05	<0.05	0.01	0.01
			3	91	<0.05	<0.05	0.01	0.01
	フロアブル (35%) 600倍 4000/10a 散布	大阪府羽曳野市 誉田 (樹井ドーナツ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			3	63	<0.05	<0.05	0.07	0.07
			3	77	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			3	91	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(ホップ)-1

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所 (品種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					8-ヒドロキシキノリン銅		8-ヒドロキシキノリン銅	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ホップ (露地) (乾毬花) 昭和50年度	水和剤(40%) 600倍 300~5000/10a 散布	岩手農試 (信州早生)	0	—	2	1	0.45	0.29
			4	14	157	143	172.40	171.30
			4	28	23	22	18.30	17.55
	水和剤(40%) 600倍 5000/10a 散布	山形農試 (信州早生)	4	42	3	3	1.88	1.76
			0	—	4	4	0.24	0.19
			4	13	271	253	308.80	305.30
			4	27	58	55	83.60	80.45
			4	41	6	6	5.32	5.22

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

2. 土壌残留性試験

(1) 分析法の原理と操作概要

(2) 分析対象の化合物

化学名 : 8-ヒドロキシキノリン銅

分子式 : $C_{18}H_{12}CuN_2O_2$

分子量 : 351.83

代謝経路図中の記号 : [A]

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

(3) 残留試験結果

① 圃場試験

推定半減期：火山灰土 3～17日
 洪積土 2～8日

試料調製及び 採取場所	供試薬剤の 濃度・量・回数	使用回数	経過日数	分析値 (ppm)		
				最高値	回数	平均値
神奈川県園芸試験場 根府川分場 (火山灰、植壤土) 昭和47年度	水和剤 (有機銅50%) 500倍 600L/10a 4回施用	—	—	<0.02	2	<0.02
		4	0	12.7	2	12.1
		4	4	3.52	2	3.41
		4	7	2.83	2	2.70
		4	15	2.23	2	2.14
		4	21	1.44	2	1.37
		4	28	1.41	2	1.36
長野県農業試験場 下伊那分場 (洪積、植壤土) 昭和47年度	水和剤 (有機銅50%) 600倍 400L/10a 6回施用	—	—	<0.02	2	<0.02
		6	0	8.11	2	7.82
		6	2	2.38	2	2.29
		6	7	0.73	2	0.70
		6	16	0.68	2	0.65
		6	24	0.63	2	0.61
群馬県農業試験場 渋川分場 (火山灰風積砂壤土) 昭和47年度	水和剤 (有機銅40%) 400倍 150L/10a 8回施用	—	—	0.14	3	0.11
		8	0	0.54	3	0.52
		8	15	0.32	3	0.29
		8	26	0.18	3	0.15
長野県農業試験場 下伊那分場 (洪積植壤土) 昭和47年度	水和剤 (有機銅40%) 400倍 350L/10a 8～9回施用	—	—	0.13	3	0.11
		9	0	1.54	3	1.27
		9	15	0.28	3	0.28
		8	26	0.18	3	0.15

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

② 容器内試験

推定半減期：火山灰土 12～26日

洪積土 3日

沖積土 12日

試料調製及び 採取場所	供試薬剤の 濃度・量・回数	使用回数	経過日数	分析値(ppm)		
				最高値	回数	平均値
滋賀県農業試験場 浅柄野菜園芸試験場 洪積土(植壊土) 昭和47年度	純品 (94.0%) 80ppm (乾土当り) 室温	—	—	<0.02	2	<0.02
		1	0	70.9	2	70.1
		1	5	29.3	2	28.1
		1	12	10.9	1	10.9
		1	21	7.09	1	7.09
		1	33	4.73	1	4.73
		1	45	2.89	1	2.89
		1	108	0.14	1	0.14
神奈川県園芸試験場 根府川分場 火山灰土(植壊土) 昭和47年度	純品 (94.0%) 80ppm (乾土当り) 室温	—	—	<0.02	2	<0.02
		1	0	71.2	2	69.3
		1	5	44.9	2	43.5
		1	12	34.5	1	34.5
		1	21	22.7	1	22.7
		1	33	19.0	1	19.0
		1	45	15.4	1	15.4
		1	60	14.2	1	14.2
群馬県農業試験場 渋川分場 (火山灰風積砂壊土) 昭和47年度	純品 1ppm (乾土当り) 室温	—	—	0.12	2	0.11
		1	0	1.01	2	0.99
		1	15	0.58	2	0.57
		1	30	0.53	2	0.47
		1	45	0.36	2	0.32
		1	60	0.23	2	0.21
静岡県農業試験場 (沖積植壊土) 昭和47年度	純品 1ppm (乾土当り) 室温	—	—	0.13	2	0.11
		1	0	0.93	2	0.91
		1	5	0.68	2	0.66
		1	10	0.55	2	0.54
		1	15	0.49	2	0.45
		1	20	0.30	2	0.26

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

VI. 有用動植物等に及ぼす影響

1. 水産動植物に対する影響

1. 原体

資料 No.	試験の種類・被験物質	供試生物	供試数/群	試験方法	試験水温 (°C)	LC50 又は EC50 (mg/L)				試験機関 (報告年)	記載頁
						24 時間	48 時間	72 時間	96 時間		
1 GLP	魚類急性毒性試験原体	コイ	10	流水式	22.3 ～ 22.9	0.0221 (0.0216)	0.0203 (0.0199)	0.0197 (0.0193)	0.0193 (0.0189)	(2004 年)	共129
2 GLP	ミジンコ類急性遊泳阻害試験原体	オオミジンコ	20	止水式	20.0 ～ 20.1	>0.471 (>0.461)	0.240 (0.235)	—	—		共130
3 GLP	藻類生長阻害試験原体	藻類 <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i>	初期濃度 1×10^4 cells/mL	振とう培養法	23.1 ～ 23.6	ErC50 (24-48 時間) : 0.0707* ErC50 (24-72 時間) : 0.0762* ErC50 (0-72 時間) : 0.0942* NOECr (0-72 時間) : 0.0300*					共131

* 実測濃度に基づく値

()内の数値は有効成分換算値

2. 製剤

1) 80%水和剤

資料 No.	試験の種類・被験物質	供試生物	供試数/群	試験方法	試験水温 (°C)	LC50 又は EC50 (mg/L)				試験機関 (報告年)	記載頁
						24 時間	48 時間	72 時間	96 時間		
4 GLP	魚類急性毒性試験水和剤 (80%)	コイ	10	止水式	21.9～ 22.5	0.0254	0.0254	0.0241	0.0241	(2004 年)	共133
5 GLP			10	止水式	21.3～ 21.6	0.057	0.033	0.029	0.029	(2004 年)	共134
6 GLP			7	半止水式	22.3～ 22.9	>0.060	0.038	0.038	0.038	(2004 年)	共135
7 GLP	ミジンコ類急性遊泳阻害試験水和剤 (80%)	オオミジンコ	20	止水式	19.9～ 20.4	>1.00	0.384	—	—	(2004 年)	
8 GLP			20	止水式	20.2～ 20.9	>4.096	0.31	—	—	(2004 年)	共137
9 GLP			20	止水式	19.8～ 20.8	>0.40	0.24	—	—	(2004 年)	共138
10 GLP	藻類生長阻害試験水和剤 (80%)	藻類 <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i>	初期濃度 1×10^4 cells/mL	振とう培養法	23.4～ 23.9	EbC50 (0-72 時間) : 0.090 ErC50 (24-48 時間) : 0.126 ErC50 (24-72 時間) : 0.142				(2004 年)	共139
11 GLP			初期濃度 1×10^4 cells/mL	振とう培養法	21.8～ 24.4	EbC50 (0-72 時間) : 0.09 ErC50 (24-48 時間) : 0.23 ErC50 (24-72 時間) : 0.15				(2004 年)	共140
12 GLP			初期濃度 1×10^4 cells/mL	振とう培養法	22.8～ 23.9	EbC50 (0-72 時間) : 0.13 ErC50 (24-48 時間) : 0.19 ErC50 (24-72 時間) : 0.18				(2004 年)	共141

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

2) 35%フロアブル

資料 No.	試験の種類・ 被験物質	供試生物	供試数/群	試験 方法	試験 水温 (℃)	LC50 又は EC50 (mg/L)				試験機関 (報告年)	記 載 頁
						24 時間	48 時間	72 時間	96 時間		
13 GLP	魚類急性毒性試験 水和剤 (35%)	コイ	10	止水式	21.3~ 22.7	0.0469	0.0433	0.0433	0.0433	(2006 年)	共142
14 GLP			10	止水式	19.5~ 21.0	0.13	0.10	0.10	0.10	(1991 年)	共143
15 GLP	ミジンコ類急性 遊泳阻害試験 水和剤 (35%)	オオミジンコ	20	止水式	20.1~ 20.3	>1.00	0.579	—	—	(2006 年)	共144
16 GLP			20	止水式	20.1~ 20.5	1.78	0.59	—	—	(1991 年)	共145
17 GLP	藻類生長阻害試験 水和剤 (35%)	藻類 <i>Pseudokirch- neriella subcapitata</i>	初期濃度 1×10^4 cells/mL	振とう 培養法	23.4~ 23.9	EbC50 (0-72 時間) : 0.281 ErC50 (24-48 時間) : 0.374 ErC50 (24-72 時間) : 0.436				(2006 年)	共146
18 GLP			初期濃度 1×10^4 cells/mL	振とう 培養法	23.8~ 24.7	EbC50 (0-72 時間) : 0.21 ErC50 (24-48 時間) : 0.19 ErC50 (24-72 時間) : 0.23				(1991 年)	共147

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

参考資料

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネシヨウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

水産動植物への影響に関する試験

1) 魚類急性毒性試験

(資料番号 1)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004年

被験物質：有機銅原体

供試動物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1群各10匹、体長 5.0 ± 0.16 cm、体重 1.4 ± 0.099 g

方法：被験物質をN,N-ジメチルホルムアミド(DMF)に溶解させ試験原液を調製し、試験用水と試験原液を一定の割合で混合して、設定濃度0.0105、0.0137、0.0178、0.023及び0.0300mg/Lの試験液を調製した。なお、対照区として試験用水のみの対照区及び試験区と同様の助剤濃度DMF 0.100mL/Lの助剤対照区を設けた。各群の試験液量、容器数、供試魚数はそれぞれ、10L、1容器、10匹とした。試験液10Lに1群10匹のコイを96時間暴露し、暴露開始3、24、48、72及び96時間後の死亡個体数及び毒性症状を観察した。試験は流水式で行った。

試験水温：22.3～22.9℃

結果：

試験濃度 (mg/L)	設定値	0.0105、0.0137、0.0178、0.023、0.0300	
	実測値	0.00111、0.0158、0.0195、0.0259、0.0310	
LC ₅₀ 値 (mg/L) *	24h	0.0221 (0.0216)	
	48h	0.0203 (0.0199)	
	72h	0.0197 (0.0193)	
	96h	0.0193 (0.0189)	
NOEC (mg/L) *	0.0137		
死亡例の認められなかった 最高濃度 (mg/L) *	0.0137		

* 設定濃度に基づく値、() 内の数値は有効成分換算値

観察された症状としては、平衡喪失、狂奔及び活動度の低下であった。試験液中の被験物質濃度の測定結果は、暴露開始時で設定濃度に対して103～116%、暴露終了時で98.0～114%であった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

(資料番号 2)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004年

被験物質：有機銅原体

供試動物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1群各 20 頭、生後 24 時間以内の幼体

方法：被験物質を試験用水と混合して 24 時間攪拌後、0.45 μm メンブランフィルターでろ過をして試験原液を調製した。ろ過後の試験原液中の被験物質濃度を測定し、脱塩素水と試験原液を一定の割合で混合して、設定濃度 0.101、0.148、0.218、0.320 及び 0.471mg/L の試験液を調製した。なお、対照区として試験用水のみの対照区を設けた。

各群の試験液量、容器数、供試動物数はそれぞれ、400mL/容器、4 容器/試験区、5 頭/容器とした。

試験液にオオミジンコを 48 時間暴露し、暴露開始 24 及び 48 時間後の遊泳阻害数及び症状を観察した。

試験は止水式で行った。

試験水温：20.0～20.1℃

結果：

試験濃度 (mg/L)	設定値	0.101、0.148、0.218、0.320、0.471	
	実測値	0.0995、0.154、0.221、0.327、0.463	
EC ₅₀ 値 (mg/L) *	24h	>0.471 (>0.461)	
	48h	0.240 (0.235)	
NOEC (mg/L) *	0.101		
死亡例の認められなかった最高濃度 (mg/L) *	0.148		

* 設定濃度に基づく値、() 内の数値は有効成分換算値

観察された症状としては、嗜眠状態、遊泳阻害及び活動度の低下であった。

試験液中の被験物質濃度の測定結果は、暴露開始時で設定濃度に対して 100～106%、暴露終了時で 96.6～102%であった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

3) 藻類生長阻害試験

(資料番号 3)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004 年

被験物質：有機銅原体

供試動物：緑藻 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*)

初期濃度 1×10^4 cells/mL

方法：被験物質を OECD 推奨培地と混合し、3 時間攪拌後、 $0.45 \mu\text{m}$ メンブランフィルターでろ過滅菌をして試験原液を調製した。ろ過滅菌後の試験原液中の被験物質濃度を測定し、この試験原液と培地を一定の割合で混合して、設定濃度 0.00875、0.0175、0.0350、0.0700 及び 0.1400 mg/L の試験液を調製した。なお、対照区として培地のみの対照区を設けた。

各群の試験液量、容器数はそれぞれ、300 mL/容器、3 容器/試験区とした。

試験液に細胞濃度が 1×10^4 cells/mL 程度になるように添加した後、72 時間暴露し、暴露開始 24、48 及び 72 時間後の細胞濃度測定及び細胞観察を行った。

試験は振とう培養で行った。

試験水温：23.1～23.6℃

結果：

試験濃度 (mg/L)	設定値	0.00875、0.0175、0.0350、0.0700、0.1400
	実測値	0.00473、0.0118、0.0300、0.0638、0.1400
EbC ₅₀ (mg/L) *		0.0586
NOECb (mg/L) *		0.0300
ErC ₅₀ (mg/L) *		(24～48h) 0.0707
		(24～72h) 0.0762
		(0～72h) 0.0942
NOECr (mg/L) *		(0～72h) 0.0300

* 実測濃度に基づく値

細胞観察では、0.0638 及び 0.140 mg/L で細い細胞が認められた。

試験液中の被験物質濃度の測定結果は、暴露開始時では設定濃度に対して 89.2～108%、暴露終了時で 29.7～92.4%であった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

4) 魚類急性毒性試験

①コイを用いた急性毒性試験

(資料番号 4)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004年

被験物質：有機銅 80%水和剤

供試動物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1群各 10匹、体長 4.6±0.6cm、体重 2.6±0.8g

方法：被験物質を試験用水に加え、設定濃度 0.010、0.018、0.032、0.056 及び 0.100mg/L の試験液を調製した。

試験液にコイを 96 時間暴露し、暴露開始 1、3、6、24、48、72 及び 96 時間後の死亡個体数及び毒性症状を観察した。

試験は止水式で行った。

試験水温：21.9～22.5℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.010、0.018、0.032、0.056、0.100	
LC ₅₀ 値 (mg/L)	24h	0.0254
	48h	0.0254
	72h	0.0241
	96h	0.0241
NOEC (mg/L)	0.010	

毒性症状は、暴露開始 3 時間後から認められ、0.056mg/L 以上の試験区で表層遊泳、自発運動減少が観察された。暴露開始 6 時間後からは 0.032mg/L 試験区でも同様の毒性症状が認められ、0.056mg/L 以上の試験区では死亡魚あるいは横転魚が認められた。また、24～72 時間後に 0.018mg/L 以上の試験区で死亡魚が認められたが、生残魚には異常は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

②コイを用いた急性毒性試験

(資料番号 5)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004年

被験物質：有機銅 80%水和剤

供試動物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1群各 10 匹、体長 4.61±0.32cm、体重 1.03±0.25g

方法：被験物質を試験用水に加え、設定濃度 0.01、0.02、0.04、0.08、0.16 及び 0.32mg/L の試験液を調製した。

試験液にコイを 96 時間暴露し、暴露開始 24、48、72 及び 96 時間後の死亡個体数及び毒性症状を観察した。

試験は止水式で行った。

試験水温：21.3～21.6℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.01、0.02、0.04、0.08、0.16、0.32	
LC ₅₀ 値 (mg/L)	24h	0.057
	48h	0.033
	72h	0.029
	96h	0.029
NOEC (mg/L)	0.02	

毒性症状は 0.01 及び 0.02mg/L 試験区では認められなかった。

0.04mg/L の試験区で運動量低下が観察された。0.08mg/L 以上の試験区では全ての個体が 24 時間以内に死亡した。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネシヨウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

③コイを用いた急性毒性試験

(資料番号 6)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004 年

被験物質：有機銅 80%水和剤

供試動物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1 群各 7 匹、体長 4.9~5.8cm、体重 平均 2.1g

方法：被験物質を試験用水に加え、設定濃度 0.0057、0.010、0.019、0.033 及び 0.060mg/L の試験液を調製した。

試験液にコイを 96 時間暴露し、暴露開始 24、48、72 及び 96 時間後の死亡個体数及び毒性症状を観察した。

試験は半止水式 (48 時間毎に換水) で行った。

試験水温：22.3~22.9℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.0057、0.010、0.019、0.033、0.060	
LC ₅₀ 値 (mg/L)	24h	>0.060
	48h	0.038
	72h	0.038
	96h	0.038
NOEC (mg/L)	0.019	

毒性症状は 0.019mg/L 以下の試験区では認められなかった。

0.033 及び 0.060mg/L 試験区においては遊泳異常が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

5) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

①オオミジンコを用いた毒性試験

(資料番号 7)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004年

被験物質：有機銅 80%水和剤

供試動物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1群各 20 頭、生後 24 時間以内の幼体

方法：被験物質を試験用水に加え、設定濃度 0.1、0.18、0.32、0.56 及び 1.0mg/L の試験液を調製した

試験液にオオミジンコを 48 時間暴露し、暴露開始 24 及び 48 時間後の遊泳阻害数及び症状を観察した。

試験は止水式で行った。

試験水温：19.9～20.4℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.1、0.18、0.32、0.56、1.0	
EC ₅₀ 値 (mg/L)	24h	>1.00
	48h	0.384
NOEC (mg/L)	0.10	

症状は 0.18mg/L 以上の試験区で水面に浮上した個体が散見されたが、0.1mg/L 試験区では試験期間中、異常は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

②オオミジンコを用いた毒性試験

(資料番号 8)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004 年

被験物質：有機銅 80%水和剤

供試動物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)
1 群各 20 頭、生後 24 時間以内の幼体

方法：被験物質を試験用水に加え、設定濃度 0.00025、0.001、0.004、0.016、0.064、0.256、1.024 及び 4.096mg/L の試験液を調製した。
試験液にオオミジンコを 48 時間暴露し、暴露開始 24 及び 48 時間後の遊泳阻害数及び症状を観察した。
試験は止水式で行った。

試験水温：20.2～20.9℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.00025、0.001、0.004、0.016、0.064、0.256、1.024、4.096	
EC ₅₀ 値 (mg/L)	24h	>4.096
	48h	0.31
NOEC (mg/L)	0.016	

0.016mg/L 以下の試験区では暴露期間中に遊泳阻害個体は認められなかった。暴露開始 24 時間後において、4.096mg/L の試験区では、30%の遊泳阻害が観察された。暴露開始 48 時間後では、0.064mg/L 以上の試験区で 5～100%の遊泳阻害を認めた。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

③オオミジンコを用いた毒性試験

(資料番号 9)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004 年

被験物質：有機銅 80%水和剤

供試動物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1 群各 20 頭、生後 24 時間以内の幼体

方 法：被験物質を試験用水に加え、設定濃度 0.038、0.069、0.12、0.22 及び 0.40mg/L の試験液を調製した
試験液にオオミジンコを 48 時間暴露し、暴露開始 24 及び 48 時間後の遊泳阻害数及び症状を観察した。
試験は止水式で行った。

試験水温：19.8～20.8℃

結 果：

設定濃度 (mg/L)	0.038、0.069、0.12、0.22、0.40	
EC ₅₀ 値 (mg/L)	24h	>0.40
	48h	0.24
NOEC (mg/L)	0.038	

0.038mg/L 以下の試験区では暴露期間中に遊泳阻害個体は認められなかった。暴露開始 24 時間後において、0.12mg/L 以上の試験区で 5～35%の遊泳阻害が観察された。暴露開始 48 時間後では、0.069mg/L 以上の試験区で 5～90%の遊泳阻害を認めた。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

6) 藻類生長阻害試験

①藻類を用いた毒性試験

(資料番号 10)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004 年

被験物質：有機銅 80%水和剤

供試動物：緑藻 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*)

初期濃度 1.0×10^4 cells/mL

方法：被験物質を OECD 推奨培地と混合し、設定濃度 0.01、0.03、0.10、0.30 及び 1.00mg/L の試験液を調製した。

試験液に細胞濃度が 1×10^4 cells/mL 程度となるように添加した後、72 時間暴露し、暴露開始 24、48 及び 72 時間後の細胞濃度測定及び細胞観察を行った。

試験は振とう培養で行った。

試験水温：23.4～23.9℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.01、0.03、0.10、0.30、1.00
EbC ₅₀ (mg/L)	0.090
NOECb (mg/L)	0.03
ErC ₅₀ (mg/L)	(24～48h) 0.126 (24～72h) 0.142
NOECr (mg/L)	(24～48h) 0.03 (24～72h) 0.03

藻類の形態観察の結果、0.10mg/L 以上の試験区で藻類細胞の膨張が認められた。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

②藻類を用いた毒性試験

(資料番号 11)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004 年

被験物質：有機銅 80%水和剤

供試動物：緑藻 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*)

初期濃度 1×10^4 cells/mL

方法：被験物質を OECD 推奨培地と混合し、設定濃度 0.02、0.04、0.08、0.16 及び 0.32mg/L の試験液を調製した。

試験液に細胞濃度が 1×10^4 cells/mL 程度となるように添加した後、72 時間暴露し、暴露開始 24、48 及び 72 時間後の細胞濃度測定及び細胞観察を行った。

試験は振とう培養で行った。

試験水温：21.8～24.4℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.02、0.04、0.08、0.16、0.32
EbC ₅₀ (mg/L)	0.09
NOECb (mg/L)	0.04
ErC ₅₀ (mg/L)	(24～48h) 0.23 (24～72h) 0.15
NOECr (mg/L)	(24～48h) 0.04 (24～72h) 0.04

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネシヨウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

③藻類を用いた毒性試験

(資料番号 12)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2004 年

被験物質：有機銅 80%水和剤

供試動物：緑藻 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*)

初期濃度 1×10^4 cells/mL

方法：被験物質を OECD 推奨培地と混合し、設定濃度 0.021、0.047、0.10、0.23 及び 0.50mg/L の試験液を調製した。
試験液に細胞濃度が 1×10^4 cells/mL 程度となるように添加した後、72 時間暴露し、暴露開始 24、48 及び 72 時間後の細胞濃度測定及び細胞観察を行った。
試験は振とう培養で行った。

試験水温：22.8～23.9℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.021、0.047、0.10、0.23、0.50
EbC ₅₀ (mg/L)	0.13
NOECb (mg/L)	0.047
ErC ₅₀ (mg/L)	(24～48h) 0.19 (24～72h) 0.18
NOECr (mg/L)	(24～48h) 0.10 (24～72h) 0.10

細胞形態の観察の結果、全ての試験区において異常は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

7) 魚類急性毒性試験

①コイを用いた急性毒性試験

(資料番号 13)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2006 年

被験物質：有機銅 35%フロアブル

供試動物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1 群各 10 匹、体長 4.6 ± 0.6 cm、体重 2.6 ± 0.8 g

方法：被験物質を試験用水に加え、設定濃度 0.013、0.017、0.022、0.030、0.040、0.055、0.074 及び 0.100mg/L の試験液を調製した。
試験液にコイを 96 時間暴露し、暴露開始 1、3、6、24、48、72 及び 96 時間後の死亡個体数及び毒性症状を観察した。
試験は止水式で行った。

試験水温：21.3～22.7℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.013、0.017、0.022、0.030、0.040、0.055、0.074、0.100	
LC ₅₀ 値 (mg/L)	24h	0.0469
	48h	0.0433
	72h	0.0433
	96h	0.0433
NOEC (mg/L)	0.022	

毒性症状としては、0.040mg/L 試験区で自発運動減少が、0.074mg/L 以上の試験区で体色黒化が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

②コイを用いた急性毒性試験

(資料番号 14)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1991年

被験物質：有機銅 35%フロアブル

供試動物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1群各 10匹、体長 5.8 ± 0.4 cm、体重 2.50 ± 0.86 g

方法：被験物質を試験用水に加え、設定濃度 0.06、0.08、0.10、0.13、0.16 及び 0.20mg/L の試験液を調製した。

試験液にコイを 7 日間暴露し、暴露開始 1、3、6、24 時間後およびその後は毎日 1 回、死亡個体数及び毒性症状を観察した。

試験は止水式で行った。

試験水温：19.5～21.0℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.06、0.08、0.10、0.13、0.16、0.20	
LC ₅₀ 値 (mg/L)	24h	0.13
	48h	0.10
	72h	0.10
	96h	0.10
NOEC (mg/L)	0.06	

毒性症状としては、0.10mg/L 以上の試験区で 6 時間後に鼻上げが観察された。0.13mg/L 試験区では 72 時間後に回転遊泳、96 時間後に横転が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

8) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

①オオミジンコを用いた毒性試験

(資料番号 15)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2006 年

被験物質：有機銅 3.5%フロアブル

供試動物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1 群各 20 頭、生後 24 時間以内の幼体

方法：被験物質を試験用水に加え、設定濃度 0.10、0.16、0.25、0.40、0.64 及び 1.00mg/L の試験液を調製した。

試験液にオオミジンコを 48 時間暴露し、暴露開始 24 及び 48 時間後の遊泳阻害数及び症状を観察した。

試験は止水式で行った。

試験水温：20.1～20.3℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.10、0.16、0.25、0.40、0.64、1.00	
EC ₅₀ 値 (mg/L)	24h	>1.00
	48h	0.579
NOEC (mg/L)	0.10	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

②オオミジンコを用いた毒性試験

(資料番号 16)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1991 年

被験物質：有機銅 35%フロアブル

供試動物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)
1 群各 20 頭、生後 24 時間以内の幼体

方法：被験物質を試験用水に加え、設定濃度 0.06、0.11、0.20、0.36、0.63、1.12 及び 2.00mg/L の試験液を調製した
試験液にオオミジンコを 48 時間暴露し、暴露開始 24 及び 48 時間後の遊泳阻害数及び状態を観察した。
試験は止水式で行った。

試験水温：20.1～20.5℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.06、0.11、0.20、0.36、0.63、1.12、2.00	
EC ₅₀ 値 (mg/L)	24h	1.78
	48h	0.59
NOEC (mg/L)	0.06	

暴露開始 24 時間後において、1.12mg/L 以上の試験区では 15～60%の遊泳阻害が観察された。暴露開始 48 時間後では、0.11mg/L 以上の試験区で 5～100%の遊泳阻害を認めた。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネシヨウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

9) 藻類生長阻害試験

①藻類を用いた毒性試験

(資料番号 17)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：2006 年

被験物質：有機銅 35%フロアブル

供試動物：緑藻 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*)

初期濃度 1.2×10^4 cells/mL

方法：被験物質を OECD 推奨培地と混合し、設定濃度 0.06、0.10、0.18、0.32、0.56 及び 1.00mg/L の試験液を調製した。

試験液に細胞濃度が 1×10^4 cells/mL 程度となるように添加した後、72 時間暴露し、暴露開始 24、48 及び 72 時間後の細胞濃度測定及び細胞観察を行った。

試験は振とう培養で行った。

試験水温：23.4～23.9℃

結果：

設定濃度 (mg/L)	0.06、0.10、0.18、0.32、0.56、1.00
EbC ₅₀ (mg/L)	0.281
NOECb (mg/L)	0.10
ErC ₅₀ (mg/L)	(24～48h) 0.374 (24～72h) 0.436
NOECr (mg/L)	(24～48h) 0.10 (24～72h) 0.18

藻類の形態観察の結果、0.32mg/L 以上の試験区で藻類細胞の膨張が認められた。

また、0.18mg/L 以下の試験区では藻類細胞の形態異常（萎縮、膨張、破裂等）や細胞凝集等は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

②藻類を用いた毒性試験

(資料番号 18)

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1991 年

被験物質：有機銅 35%フロアブル

供試動物：緑藻 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*)

初期濃度 1×10^4 cells/mL

方 法：被験物質を OECD 推奨培地と混合し、設定濃度 0.02、0.04、0.08、0.16、0.32 及び 0.64mg/L の試験液を調製した。

試験液に細胞濃度が 1×10^4 cells/mL 程度となるように添加した後、72 時間暴露し、暴露開始 24、48 及び 72 時間後の細胞濃度測定及び細胞観察を行った。

試験は振とう培養で行った。

試験水温：23.8～24.7℃

結 果：

設定濃度 (mg/L)	0.02、0.04、0.08、0.16、0.32、0.64
EbC ₅₀ (mg/L)	0.21
NOECb (mg/L)	0.16
ErC ₅₀ (mg/L)	(24～48h) 0.19 (24～72h) 0.23
NOECr (mg/L)	(24～48h) 0.16 (24～72h) 0.16

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

2. 水産動植物以外の有用生物に対する影響

1) 蚕に対する影響

No.	被験物質	供試生物	供試数/群	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
1	原体	蚕 芙蓉×東海 4 齢	20 頭/ 区、 3 連制	経口投与 4000、20000ppm に調製した 被験物質を桑葉に散布し給 餌	4000ppm: 蚕、繭に影響なし 20000ppm: 死虫率 98.3%、 4 齢から 5 齢に脱皮せず。	(2003 年)

2) ミツバチに対する影響

No.	被験物質	供試生物	供試数/群	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
1	原体	セイヨウミツバチ 約 30 日齢	25 頭/ 区、 3 反復	78, 313, 1250, 5000, 20000ppm に調製した被験物質を 胸部背面に 1 μ l/bee 滴下	48 時間 LD50 : >20000ppm	(2003 年)

3) 天敵昆虫に対する影響

No.	被験物質	供試生物	供試数/群	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
1	原体	キクヅキ コモリグモ	16 頭	イネ実生に 875、6400g a. i. /10a 散布後、供試生物 を接種。3 時間、1、2 日後に 異常数・死亡数を調査。	異常/死亡虫は確認されず、 影響は小さい。	(2004 年)
2	原体	タイリクヒメハナ カメムシ	10 頭	インゲン葉に 875、6400g a. i. /10a 散布後、供試生物 を接種。1、2 日後に死亡数 を調査。	死亡率 0~20% であり、影響 は小さい。	(2004 年)
3	原体	ショクガタマバエ	20 頭	きゅうり葉に供試生物を接 種後、875、6400g a. i. /10a 散布。3 時間、1、2 日後に異 常数・死亡数を調査。	異常・死亡率は 10~25% (2 日後) であったが、無処理 区 (同 20%) と同等であり、 影響は小さい。	(2004 年)

4) 鳥類に対する影響

No.	被験物質	供試生物	供試数/群	投与方法 投与量	試験結果	試験機関 (報告年)
1 GLP	原体	ニホンウズラ	♂6 ♀6	強制経口 ♂♀ 0, 390, 546, 765, 1071, 1500mg/kg	LD50 ♂: 1249mg/kg ♀: 809mg/kg 投与 1 日後に軽度の体重増 加抑制。4 日後以降は回復	(2003 年)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

Ⅶ. 使用時安全上の注意、解毒法等

1. 使用時安全上の注意事項

1) キノンドー水和剤 40

- (1) 誤飲・誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (4) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

2) サンキノリン

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬液が眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

3) キノンドー水和剤 80

- (1) 誤飲・誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (4) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

4) オキシンドー水和剤 80

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (4) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

5) 有機銅水和剤 80

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- (5) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

6) ドウグリソ水和剤

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (4) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

7) ナレート水和剤

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

8) キノンドーフロアブル

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

9) ドキリンフロアブル

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。

10) シトラーノフロアブル

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (5) 夏期高温時の散布はさけること。

11) キノンドー粒剤

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- (4) 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

12) バッチレート

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (4) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

1 3) オキシラン水和剤 (キャプタン 20%、有機銅 30%)

- (1) 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。
また散布液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (5) 夏期高温時の使用を避けること。
- (6) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後 (少なくとも散布当日) に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

1 4) キンセツ水和剤 (有機銅 30%、水酸化第二銅 10%)

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には、直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着葉すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

1 5) キンセツ水和剤 80 (有機銅 60%、水酸化第二銅 20%)

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、薬液調製時及び種子粉衣の際には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着葉すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

16) ビオネクト (有機銅 30%、脂肪酸グリセリド 55%)

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はアグロ カネショウ株式会社、サンケイ化学株式会社及び日本農薬株式会社にある。

2. 解毒法及び治療法

該当事項なし

3. 製造時、使用時等における事故例

製造場での作業従事者における事故例はなかった。

広範囲の農作物に対して全国的に使用され続けてきたが使用者における事故例はなかった。